

第30回特別展

—いま、ペールをめぐ小磯芸術—

小磯良平展

日本芸術院会員で、文化勲章受賞画家であり、神戸の名誉市民でもあった洋画家・小磯良平氏は、惜しまれつつ昭和63年（1988）12月16日に85歳で亡くなった。その後、平成元年（1989）6月に御遺族よりアトリエの建物を含む遺作約2000点（約1500点の新聞挿絵の原画を含む）が神戸市に寄贈され、作品を収蔵する美術館として「[小磯記念美術館](#)」が六甲アイランドに平成4年秋に開館した。

本展は、一括して寄贈された作品の中から優品を選んで、美術館での公開に先がけて御披露するべく神戸市立博物館で展覧することとなったもの。アトリエに残されていた油彩の作品（未完成作を含む）、デッサン、新聞挿絵、愛用の画材や用具、画題となった人形などの中から、画家の人となりや芸術の深奥をうかがい知ることができる作品、資料を選んで展示した。未公開作品を通じて、今まで知ることができなかった制作のプロセスや苦心が明らかになり、不世出の画家の一面を垣間見ることができるよう配慮した。

会期／平成2年2月10日（土）～3月25日（日）

会場／特別展示室1・2、南蛮美術館

主催／神戸市立博物館、神戸新聞社

開館日数/37日

入館者数/34, 707人

出品件数/240点



※この図録は完売いたしました。